

12-B. ヨコバイ目・腹吻亜目

(1) ヨコバイ目・腹吻亜目の生息状況

栃木県内からは、香川・樋口（2003）により 11 科 435 種の腹吻亜目が記録されている。

本調査では、文献調査のみを実施し、5 科 13 種が確認された（表Ⅶ-12-B-(1)-1）。この結果、西那須野・塩原地区からは栃木県産腹吻亜目のうち、約 3%の生息が記録されたことになる。かなり低い数値であり、極めて不十分な結果となった。

近隣地区の状況を勘案すると、追加記録される可能性が高い種類が相当数ある。今後の綿密な調査により非常に多くの種が追加されよう。

【表Ⅶ-12-B-(1)-1 ヨコバイ目・腹吻亜目の科別種数一覧】

| 科名※ | 本調査地の生息種 | 調査確認 | (文献記録のみ) |
|-----------|----------|------|----------|
| コナジラミ科 | 1 | | (1) |
| カタカイガラムシ科 | 2 | | (2) |
| フサカイガラムシ科 | 1 | | (1) |
| マルカイガラムシ科 | 2 | | (2) |
| アブラムシ科 | 7 | | (7) |
| 計 5 科 | 13 種 | | (13) 種 |

※科の分類と配列は香川・樋口（2003）に準じた。

コナジラミ科は国内に 27 属 65 種が知られるが、北海道には 2 種しか知られておらず、大多数の種は本州以南に分布するという。木本に依存する種が大半で、草本につく種類は少ない。ミカンを始めとした柑橘類の害虫である。

カタカイガラムシ科は国内に 18 属 60 種が知られ、極めて多様な形態と生態を持った種が知られている。カメノコロウムシなどロウムシ属の種は、糊状や粘土状の蠟物質で背面が厚く被われる。多くの植木や果樹の害虫である。

フサカイガラムシ科は国内に 4 属 15 種が知られ、虫体はセルロイドに似た薄く硬い半透明の殻で被われている。

マルカイガラムシ科は国内に 62 属 220 種が知られるカイガラムシ類の中では最大の科である。

最も進化し特殊化の進んだグループとされ、小型で脱皮殻と分泌物で鱗片状やカサブタ状の虫体被覆物、つまり「介殻」を形成し、寄主植物に固着して生活するという。

アブラムシ科は国内に 199 属 669 種が知られる非常に大きな科。種によって寄生する植物がほぼ限定されているが、本科の種類数が多いため非常に多くの植物に吸汁害を与え、さらに植物ウイルスの媒介昆虫としても重要である。

以上のように、本亜目に属する種類は、重要な害虫を多数含んでいる。適切な駆除や防除のためにも、早急に生息種の把握が望まれる。

(2) 保全すべき種

保全すべき種に該当する確認種はなかった。

(3) 注目すべき種

注目すべき種に該当する確認種はなかった。

(文責：渡辺 剛)

【目録】

※科の分類、科・種の配列、和名・学名に関しては、香川・樋口（2003）に準じた。

※生息確認種と生息エリアは、文献記録から引用した。

| 科名 | 和名 | 学名 | A 地域 | B 地域 | C 地域 | 山岳 地域 | |
|------------|-----------------|---|---------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| ヨコバイ目・腹吻亜目 | | | | | | | |
| コナジラミ科 | オンシツコナジラミ | <i>Trialeurodes vaporariorum</i> (Westwood) | | <input type="checkbox"/> | *1 | | |
| カタカイガラムシ科 | カメノコロウムシ | <i>Ceroplastes japonicus</i> Green | | <input type="checkbox"/> | *1 | | |
| | ツバキワタカイガラムシ | <i>Pulvinaria floccifera</i> (Westwood) | | <input type="checkbox"/> | *1 | | |
| フサカイガラムシ科 | ナラフサカイガラムシ | <i>Asterolecanium japonicum</i> Cockerell | | <input type="checkbox"/> | *1 | | |
| マルカイガラムシ科 | チャクロホシカイガラムシ | <i>Parlatoria theae</i> Cockerell | | <input type="checkbox"/> | *1 | | |
| | ウメシロカイガラムシ | <i>Pseudaulacaspis prunicola</i> (Maskell) | | <input type="checkbox"/> | *1 | | |
| アブラムシ科 | コマツナギアブラムシ | <i>Aphis indigoferae</i> Shinji | | | <input type="checkbox"/> | *1 | |
| | キョウチクトウアブラムシ | <i>Aphis nerii</i> Boyer de Fonscolombe | | | | <input type="checkbox"/> | |
| | テンニンソウヒゲナガアブラムシ | <i>Aulacorthum phytolaccae</i> Miyazaki | | <input type="checkbox"/> | | | *1 |
| | キツリフネコブアブラムシ | <i>Eumyzus gallicola</i> Takahashi | | | | | <input type="checkbox"/> |
| | ホウセンカコブアブラムシ | <i>Eumyzus impatiensae</i> (Shinji) | | | | | <input type="checkbox"/> |
| | ヤマビワケダアブラムシ | <i>Mollitrichosiphum</i> (<i>Metatrichosiphum</i>) <i>yamabiwae</i> Suenaga | | | | | <input type="checkbox"/> |
| | イガフシマンサクアブラムシ | <i>Hamamelistes miyabei</i> (Matsumura) | | | | | <input type="checkbox"/> |

【参考文献・引用文献】

※目録に引用した文献は、末尾に*を付している。

平嶋義宏・森本桂監修，2008. 新訂 原色昆虫大圖鑑 第Ⅲ巻（トンボ目・カワゲラ目・バッタ目・カメムシ目・ハエ目・ハチ目 他）. 北隆館，654pp.

香川清彦・樋口弘道，2003. 腹吻亜目 Stenorrhyncha. 栃木県自然環境基礎調査 とちぎの昆虫Ⅰ. 栃木県林務部自然環境課，pp. 162-191. *1

環境省，2007. 昆虫類レッドリスト. 絶滅危惧種情報，環境省ホームページ.

河合省三，1996. カイガラムシ型類. 日本動物大百科 第8巻 昆虫Ⅰ. 平凡社，pp. 155-157.

宮武頼夫，1996. コナジラミ型類. 日本動物大百科 第8巻 昆虫Ⅰ. 平凡社，pp. 155.

宮崎昌久，1996. アブラムシ型類. 日本動物大百科 第8巻 昆虫Ⅰ. 平凡社，pp. 154-155.

栃木県林務部自然環境課・栃木県立博物館編，2005. レッドデータブックとちぎ. 栃木県. 898pp.